

神楽名

よ かり うち 夜狩内神楽

伝承地

夜狩内地区
椎葉村大字下福良夜狩内

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

夜狩内神楽保存会
代表 那須 正己



弓の正護

◆ 神楽の概要・由来・その他

夜狩内神楽は、氏神さまである天満天神もりかくらと森鹿倉神社よかりうちに、五穀豊穰と無病息災を願い奉納される。各神社の御神木には注連がかけられ、御神酒を入れた竹筒の「かけぐり」や米粉と麴を水で練ったものを榊葉にのせた「ごふ」等が供えられる。笹竹に集落の人数分の白紙の紙垂れを吊した「人物の幣」も添えられる。それぞれの神社では、神事の後に神迎いの神楽として「座付」等が舞われ、「神迎いの幣」に神を勧請する。神楽宿である夜狩内集会センターたかまがはらの高天原に「神迎いの幣」を納め、神々を迎えての神楽が明け方近くまで奉納される。

舞処である御神屋みこうやは、四隅に竹を立て四方に注連をはる。その注連には切り下げの御幣と榊枝が交互に下げられる。天井中央には「星の幣」と呼ばれる白い御幣が、小銭、麻緒、米などと共に吊り下げられる。正面中央には祭壇たかまがはらの高天原が設置され、神迎いの御幣、金の御幣、榊などが藁束わらたばの上に立てられる。御神屋の外にも、五色の幣を吊した木が高く飾られ、森の中で舞っているかのように設えられる。

◆ 芸能の機会・場所

- 夜狩内夜神楽... 12月の第3土・日曜日頃、夜狩内集会センターばんおこにて「板起し」の後、天満天神と森鹿倉神にて一、二番奉納。その後、夜狩内集会センターにて夜神楽を奉納
- 鈴の口開けくちあ... 1月～3月の頃、新年の神楽始めの行事。「座付」「神迎い」「幣の手へい」を奉納

◆ 演目一覧

ばんおこ
板起し

ざつけ
座付(天満天神)

ざつけ かみ じゆう
座付・上の重(森鹿倉神社)

たかまがはら
神迎いの神楽・高天原

いち かぐら
一神楽

座付

かみ じゆう
上の重

たすき
襷の手の舞

じわり
地割の舞

扇の舞

稲荷神楽

しゃからほう

がんにょうぜ
願成就

へいのて
幣ノ手

ぬくまのて
温野手の舞・飛ぶとこ

矢の手の舞

だいじん かぐら
大尽神楽

矢の手の舞・鈴なし

弓の正護

神送り

※平成27年12月に奉納された演目に基づく

◆ 演目の特徴

「願成就」では、御神屋回りの注連縄に吊された榊葉を手に採って御神屋に入り、東・南・西・北・中央の五方を向き願成就の唱え言し、三度の拝みをする。この演目では、女性を含む参拝者も願主として御神屋に入ることが許される。来年も病気や不浄のないように祈願するもので、榊葉はお守りとして大事に持ち帰る。

「温野手の舞・飛ぶとこ」はもち米をのせた盆を両手で持つ3人舞で、激しく舞った後に散米をする。舞の途中に仮装した村人数名が、芝(榊木)を床に引きずり、御神屋に乱入する「芝入れ」がある。乱入者たちは太夫にとがめられ、ことわりを言って酒と肴を太夫に差しだし、もう御神屋を荒らさないと言って退く。

◆ その他の特徴

- 面... 鬼神面、等
- 楽... 太鼓、笛、鉦(銅拍子)
- 装束... 舞衣、袴、烏帽子、毛笠(竹の輪に五色の紙垂れ) 等
- 採り物... 御幣、扇、鈴、刀、弓、矢、盆 等
- 文書... 文政七年(1824)中野八重 利平八〇の墨書のある「高天原ノ云い句」には高天原の唱教をはじめ、温野荒神問答 等が記されている

◆ 伝承の現状・課題

夜狩内集会センターが建設される以前は、民家を神楽宿とし輪番で夜神楽を奉納していた。現在、保存会会員は40名ほどいるが、実際の舞い手は12名から13名と少ない。地域外に住んでいる人も多く、夜神楽の継承のための方法が模索されている。



神迎え



しゃからぼう



温野手の舞